

# 民主青年新聞

●ホームページ www.dylj.or.jp ●Eメール minsin@dylj.or.jp

見どころ

ロシア予備役30万人動員 (3面)

高校生の就職活動って? (6、7面)

学費はますます半額に——矛盾を深める岸田政権の修学支援制度改革(10、11面)

## 社会を変える展望を広めよう



▶講演をする日本共産党の志位委員長

9月17日、日本共産党創立100周年記念講演会が行われました。志位和夫日本共産党委員長が登壇し、「日本共産党100年の歴史と綱領を語る」と題して講演しました。講演を聞いた青年の感想を紹介します。  
(関連2面、文中は一部仮名、齊藤崇記者)

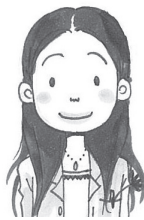
## 日本共産党創立100周年記念講演会

### まわりに流されず主張し続けたい

東京 大学生 岡野さん

戦前の天皇絶対の専制政治の変革に正面から挑むという部分で、困難の中、命懸けで活動してきた人がいたからこそ今の日本国憲法があるのだと感じました。今の社会は、変な目で見られたくないから何も言わない、というようなところがあると思います。しかしかつて、政治批判をするのが本当に

命懸けだった時代に、それでもたたかい続けた人がいたことを思えば、周りの目とかを気にするのではなく自分が正しいと思うことを主張し続けたいと思います。



### 記念講演をよく読みこみたい

愛知 社会人 東山さん

記念講演では、当時絶対的に正しいとされたソ連の権威性に対し、日本共産党は感わされなかったこと、日本共産党はマルクスの文献を自分たちで研究し、科学的社会主義の理論を築き直していったことが語られました。正しいことは何かを常に問い続け、社会を良くしようとしている団体として、信頼できると思いました。

後半には、「反共と反動のくわだての一步一步が、自民党政治と国民との矛盾を広げ、支配体制をもろく弱いものになっている」「日本はいま、新しい政治を生み出す『夜明け前』』というお話がありました。社会保障を削るなど、自分たちだけが得をしようという政治がなされると、必ずどこかにしわ寄せがいくと思います。そういう矛盾が露呈して自民党政治の支配がもろく弱いものになっていると思うので、ふに落ちる話でした。今の政治の何が問題かをちゃんと分かってもらえるような対話をできるようにしたいです。記念講演をよく読みこんでいきたいです。



### ソ連との論戦は世界的な意義をもつ

東京 大学院生 小川さん

戦前のたたかいについて、特に女性党員が命を懸けてたたかっていたのを知りませんでした。女性党員を含め亡くなった方の名前が何人も出てきましたが、自分が同じ立場だったら、命を懸けてまで自分の主張を貫けなかったかもしれないと思うと、襟を正したくなる事実だと思います。

しまっていたら、全体主義に陥り、共産主義そのものが過ちとして葬り去られていたのではないかと考えました。

戦後、多くの国の共産党がソ連に迎合する中で、日本共産党は独自の立場を貫き、唯一ソ連と論戦をくり広げたことは世界史的意義があると思います。もし日本共産党がソ連とたたかわずに迎合して

ソ連共産党に対抗した共産党があったということは、少なくとも共産主義自体が間違いではなかったことの証明になると思います。日本国内でも自公政権に対する確固たるストッパーがおらず、今以上にやりたい放題やられていたのではないのでしょうか。



### 記念講演の目次

- 一、どんな困難のもとでも国民を裏切らず、社会進歩の大義を貫く不屈性  
戦前—天皇絶対の専制政治の変革に正面から挑む  
戦後—アメリカの対日支配の打破を戦略的課題にする
- 二、科学的社会主義を土台にした自己改革の努力  
「50年問題」と、自主独立の路線の確立  
自主独立の路線を土台にした綱領路線の理論的・政治的發展  
アメリカ帝国主義論の発展—ソ連覇権主義との生死をかけたたたかいのなかで  
「議会の多数を得ての革命」の路線は、どのように形成、発展してきたか  
世界論の発展—ソ連、中国の覇権主義との闘争、批判をつうじて  
野党外交と世界論—発達した資本主義国の左翼・進歩政党との交流の発展を  
社会主義・共産主義論—画期的な理論的發展をどうやってかちとったか  
科学的社会主義の「ルネサンス」—覇権主義とたたかい続けた全党の奮闘の成果  
党の活動と組織のあり方—民主集中制の発展
- 三、国民との共同—統一戦線で政治を変えるという姿勢を貫く  
1960年代末〜70年代の躍進—反共キャンペーンと「社交合意」  
1990年代後半の躍進—反共謀略と「二大政党の政権選択論」  
2010年代中頃の躍進—市民と野党の共闘への挑戦  
反共と反動のくわだての一步一步が、矛盾を広げ、支配体制をもろく弱いものに  
強く大きな日本共産党の建設を—党の歴史的發展段階と展望をどうとらえるか  
結び—次の100年に向かって